

和泉流二十世宗家

狂言
ら
い
ふ

和泉
元彌
の

Produced by
笑う猫
Laughing Cats

出演：和泉元彌
和泉流宗家一門

狂言は世界最古の喜劇

日本人らしさは、時代によって変わるかもしれませんが、いつの時代にも通じる日本人しさはあるのではないかと私は思っています。例えば、豊かに与えられた日本の四季の中で、日本人の感性は育ってきました。一見この季節感からほど遠いように思える笑いのセンス、実は日本の自然観や季節感から生まれてきています。狂言を演じているとそれがよくわかるのです。日本人はもともとと感性豊かに笑っていたのです。狂言は笑いの芸能です。狂言を観れば、昔の日本がわかりますし、日本人の感性がわかります。

狂言の生まれた室町時代の人々は、現代の私たち以上にもつと暮らして楽しんでいました。たとえば歌を詠むことなどもそのひとつです。歌を詠んだ経験のある方ならばおわかりだと思いますが、歌を詠もうとすると、急に自然が身近に感じてくるから不思議です。歌を詠み、謡を謡い、舞を舞う。能舞台が野外にあったことも、自然をみんなで楽しんでいた証拠です。歌を詠んだり、舞を舞ったりが現代の日本の常識のように広まったとしたならば、狂言の舞台もぐんと身近に感じていただけるはずです。若者がさらりと謡を謡ったりしたら、どんなにかついでだろうと思えます。でも、何も歌を詠まなくても狂言を観ていただだけで、日本人がもともと持っていた感性を感じて頂けます。

古典芸能と言えど、難しくなく、あくまで、楽しく狂言の舞台が広まってもらえばと、「日本室町化計画」と名付けました。この室町時代の感覚や感性を狂言を通して、笑いとともに皆様に伝えていくことができれば幸いです。



プログラム

公演時間：1時間20分(休憩を含む)

《Aプログラム》

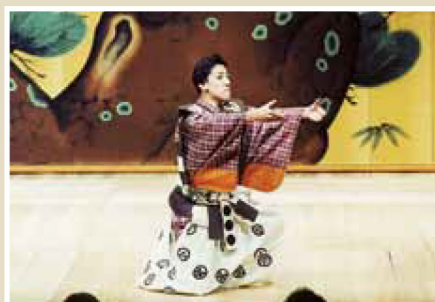
- ①狂言のお話
- ②鬼瓦(20分) 出演者2名
— 休憩 10分 —
- ③盆山(15分) 出演者2名
- ④和泉元彌氏によるトーク&ワークショップ

《Bプログラム》

- ①狂言のお話
- ②仏師(25分) 出演者2名
— 休憩 10分 —
- ③盆山(15分) 出演者2名
- ④和泉元彌氏によるトーク&ワークショップ



鬼瓦 おにがわら 久しく在京の大名が帰郷するにあたって、因幡堂の薬師如来へ参詣する途中、鬼瓦を見て国元の妻を思い出す。

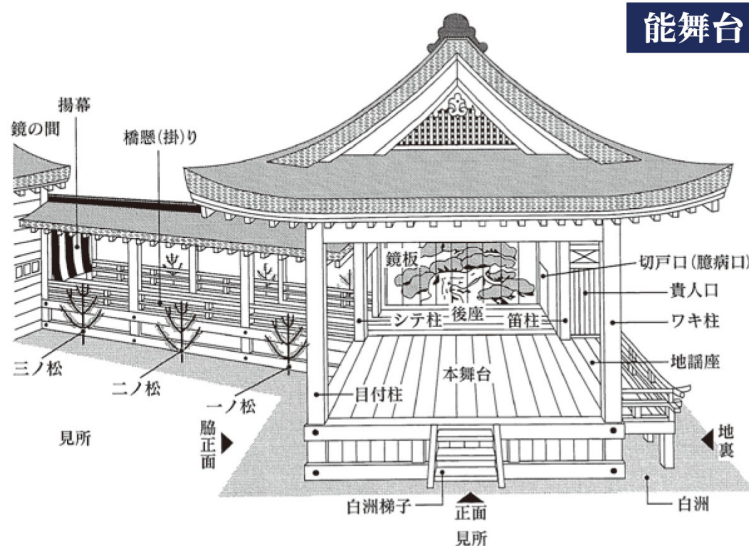


盆山 ぼんさん 盆山の蔭に隠れた盗人は、その家の主人から、犬だ、猿だとからかわれ、最後には鯛だと言われ、飛び跳ねながら逃げる。



仏師 ぶつし 仏像を求めて都に上がった田舎者に、仏師と称してすっぱが近づき、前金を取ってから、自分が仏像になりすましますが…。

能舞台



狂言を楽しんで頂くときに、能楽堂の仕組みを知っていただくと、興味がひと味違います。現在は、簡易舞台の設置も可能なので、体育館等のスペースを活用した公演も可能です。



「シェイクスピア」について、英語でワークショップを行なうなど海外での狂言普及に尽力し、近年は、狂言の伝承・普及とともに小・中学生の「こころの教育」に努めるなど、多方面で精力的な活動を展開している。



狂言らいぶ

狂言は、室町時代の日常語による会話劇。
その室町口語は現代日本語の基礎と言われています。
だから時代を超えてわかる！笑える！



プロフィール

今、私たちが演じているこの舞台を
600年前の日本人が観ていたと
想像するだけでワクワクします。
このワクワクドキドキ感を一人でも
多くの方々に感じて頂けたらと思います。

和泉元彌(和泉流二十世宗家)



3歳で、「うしはら靱猿」の小猿役で初舞台。その後
9歳で狂言最高の格式を持つ「さんばせう三番叟」を演じ
るなど、大曲・秘曲・稀曲を異例の若さで次々に
演じた狂言界の若きホープ。

和泉淳子(日本初女性狂言師)



3歳で初舞台。平成元年、国立能楽堂におい
て「史上初女性狂言師誕生記念公演」を行い、
狂言界、初の女性狂言師として注目を集める。
以後、テレビキャスターやCMなどでも活躍し、
女性狂言師協会を設立する。

また、長女和泉慶子も「うしはら靱猿」の小猿役で初
舞台を踏み、史上初の母親狂言師として、子
どもたちへの狂言教育にも精力的に取り組ん
でいる。

十世・三宅藤九郎



「うしはら靱猿」の小猿役で初舞台。その後、先代
9世三宅藤九郎の指名により、10世三宅藤九郎
の名跡を継承する。また、和泉淳子とともに女
性狂言師としての活躍が認められ文部大臣よ
り感謝状を授かる。

また、ロンドン・グロブ座において「狂言と

心揺さぶる"本物"の迫力!

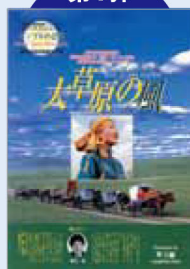
笑う猫はジャンルを越え、
優れた舞台芸術作品を
皆様にお届けいたします。

メディアや舞台芸術全般の経験と実績を有し、あらゆるニーズに対応できる個性豊かなクリエイティブ創造集団として、1987年に株式会社笑う猫は設立されました。しちよと気になる、この名前をキャッチフレーズに、主に舞台芸術全般の企画・製作・プロデュース等幅広く活動させて頂いております。

また学校等の芸術鑑賞会をはじめ、自治体・公立文化施設の自主事業・各種フェスティバル・博覧会・イベント・オリジナル企画(市民参加型演劇・音楽・伝統芸能etc)の企画立案・制作コーディネート業務もおこない、様々なシーンに合わせた優れた舞台芸術作品を皆様にお届け致しております。

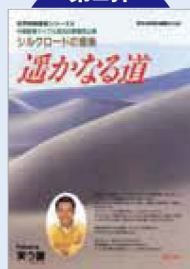
笑う猫の世界民族音楽シリーズ

第1弾



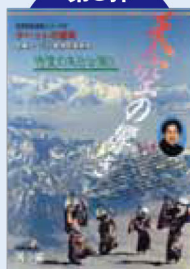
モンゴルの音楽
「大草原の風」

第2弾



シルクロードの音楽
「遥かなる道」

第3弾



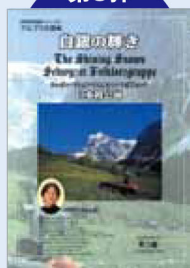
チベットの音楽
「天空の響き」

第4弾



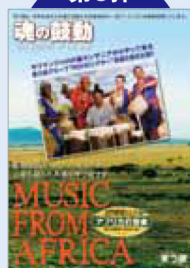
アンデスの音楽
「大地の讃歌」

第5弾



アルプスの音楽
「白銀の輝き」

第6弾



アフリカの音楽
「魂の鼓動」

第7弾



ロシアの音楽
「静かなるドン河」

第8弾



韓国の音楽
「民の宴」

現代演劇プロデュース

第1弾



劇団離風霊船公演
「ゴジラ」

第2弾



劇団ひまわり公演
「最遊記」

第3弾



沢木 順
「幸せを売る男」

笑う猫のN響企画



N響トップメンバーによる
「プラスアンサンブル」



N響メンバーによる
「木管五重奏」



「N響 篠崎史紀と
弦楽アンサンブル」

お問合せ
お申込み

(株)笑う猫
文化事業局

TEL 0422-56-2329

FAX 0422-56-2379

〒180-0012 東京都武蔵野市緑町2-1-5 <http://www.warauneko.com> E-mail: office@warauneko.com